



松村直樹さんの結果報告書

[受験日] 2013 年 7 月 7 日

[前回受験日] 2011 年 4 月 8 日

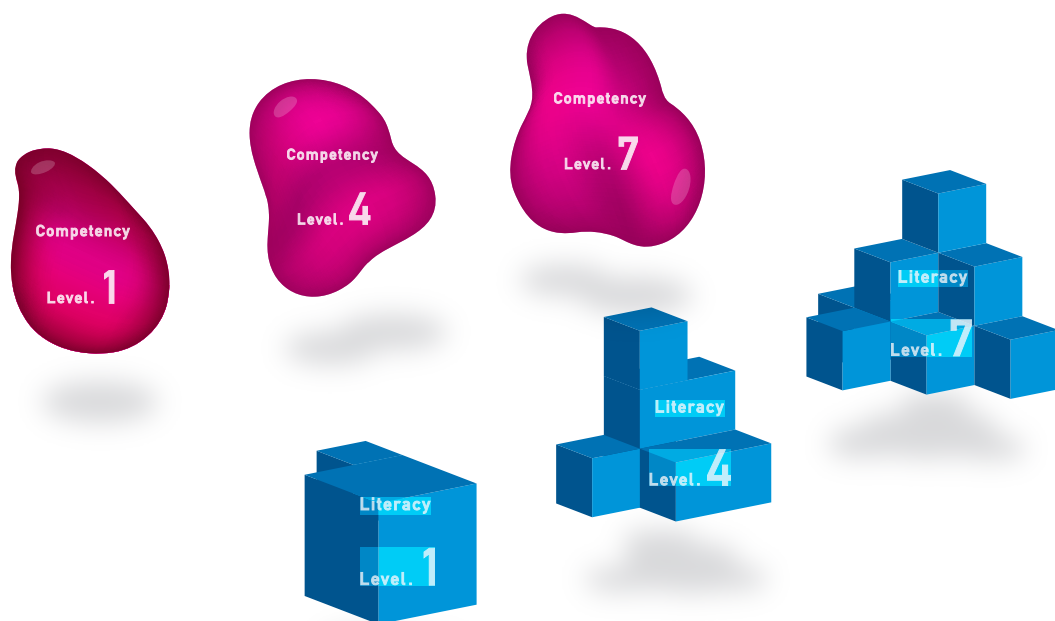
PROG 報告書 のねらい

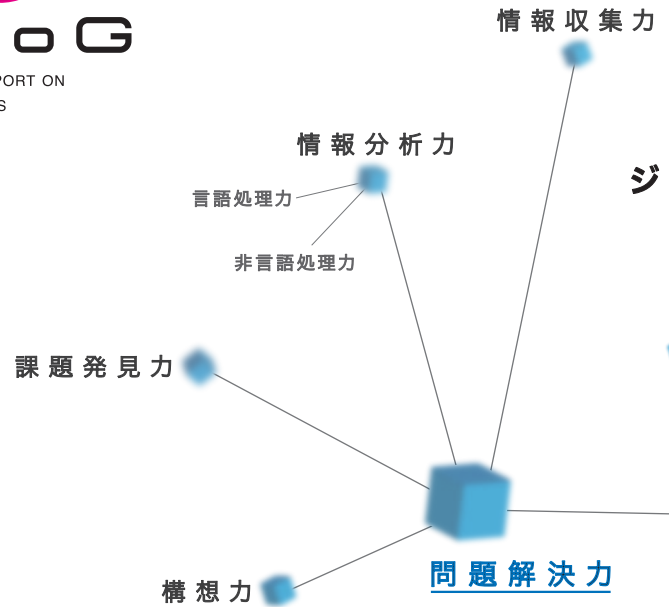
この報告書は、あなたが社会人として活躍するにあたり必要な基礎能力(GenericSkills=ジェネリックスキル)がどのように発達(Progress)しているかを測定したものです。ここでいう社会人とは、単にはたらく人を指すものではなく、社会と関係し共存するすべての人が社会人です。会社員も、自営業も、研究職も、学生も皆、互いに関わりあい高めあう関係にあります。その社会人生活をより豊かに、有意義にするものを私たちはジェネリックスキルと呼んでいます。この能力は、生まれもって備わったものではありません。日常生活で意識的に行動・学習することで、開発されたものです。

このレポートのねらいは、現時点でのあなたの基礎能力を測ることで、いま、やっておきたい自分磨きの計画を立てることにあります。ただ漫然と眺めるのではなく、空いたスペースに感じたことをメモしたり、おさえておきたいところにアンダーラインを引くなどして自分磨きの計画書の下書きとして使いましょう。(次頁参照)

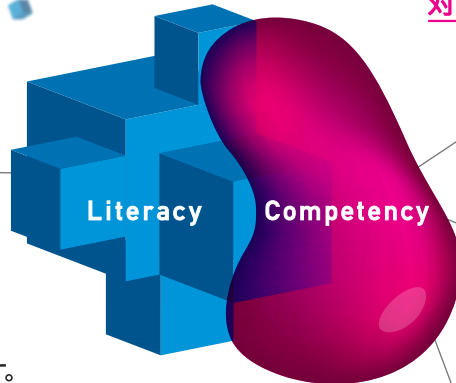
PROG 報告書 の見方

あなたの測定結果は、成績とイメージグラフィックで示されます。成績はLevel 1～7までの数値で示されます。イメージグラフィックは、レベルが上がるごとにより、形の複雑さが増し、より対応可能な範囲の広い社会人としての能力発達が示されます。





ジェネリックスキルの全体像 [Generic Skills]

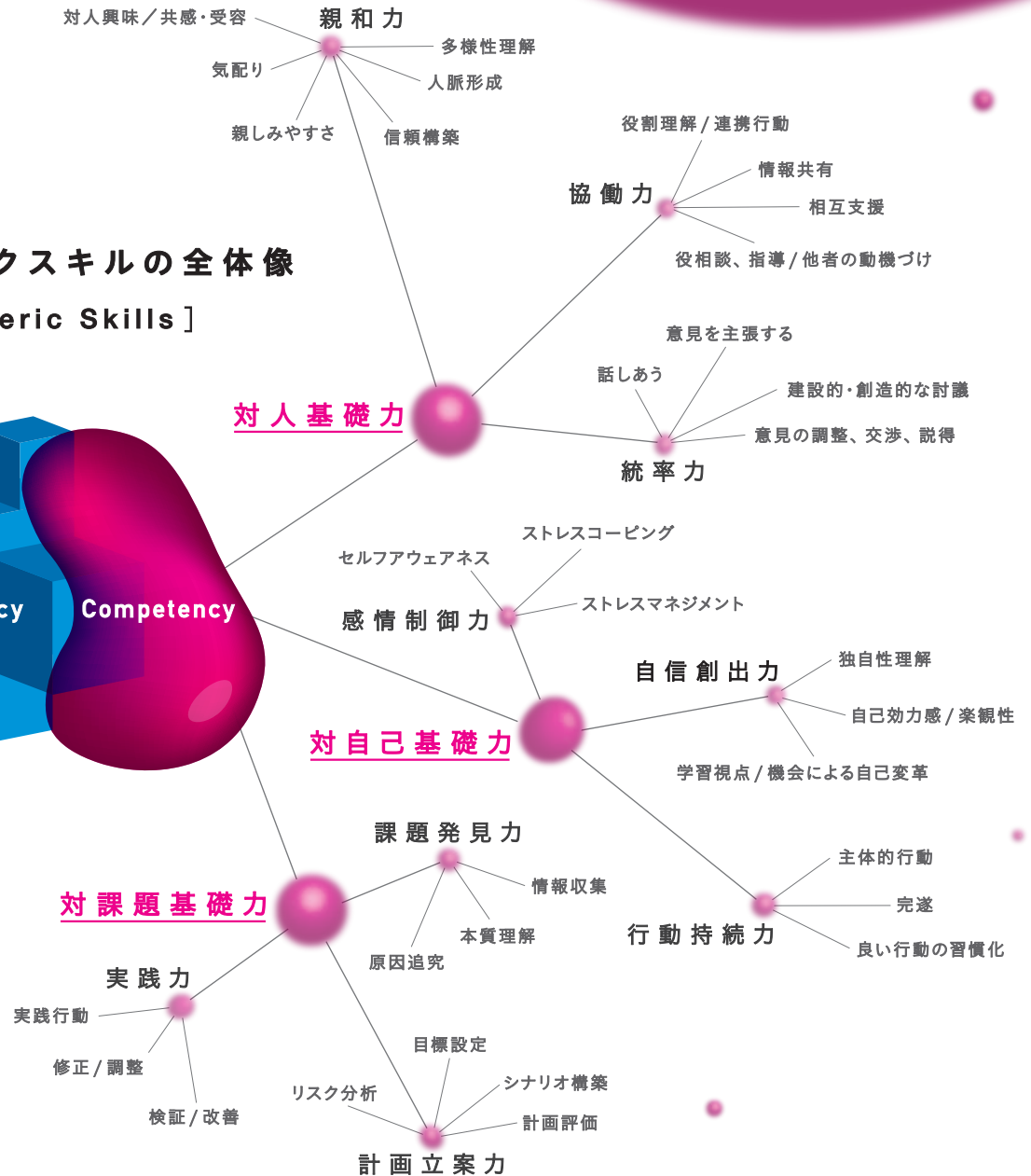


ジェネリックスキルは2つの要素の組み合わせで構成されます。

Literacy (リテラシー)とは、知識を理解・整理・活用する力。
社会人として知っておいてほしいことを自ら積極的に学び、それを理解し、使いこなそうとすることを指します。

Competency (コンピテンシー)は人と、自身をあるべき方向に導く力。
周囲をリードする立場の人に期待される行動特性がとれるかどうかを指します。

リテラシーがあたまなら、コンピテンシーはからだ。
リテラシーがこころなら、コンピテンシーはことば。
どちらも不可欠な要素だということを、まずは理解してください。

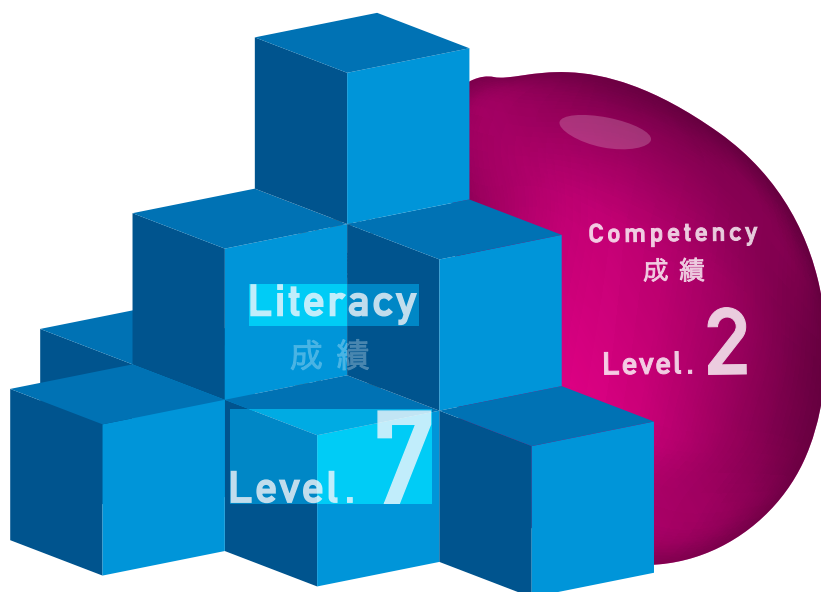


Literacy × Competency

全体傾向

リテラシーとコンピテンシーのバランス

大学の授業の中で知識を身につけることはとても大切なことですし、また社会人として求められる力を意識しながら大学生活を送ることも意義があります。リテラシーとコンピテンシーはバランスよく身につけることが理想です。テスト結果から今の自分のタイプを知り、今後の能力開発の参考にしてください。



松村直樹さんの全体傾向 >>>

リテラシーとコンピテンシーのバランスにおける、あなたの傾向はリテラシーが高く、コンピテンシーが低くなっています。勉強は得意だけど、経験が不足している状態といえます。ここぞというときに、どうすべきかわかってはいるのだけれど、どこか自信を持って行動できないということもあるのではないのでしょうか。仲間と一緒にいろいろな経験をする機会を持ったり、自分の経験を振り返ってみたりしながら、経験から学ぶクセを身につけることが、あなたの自分磨きのカギになりそうです。(このテキストはダミーです)

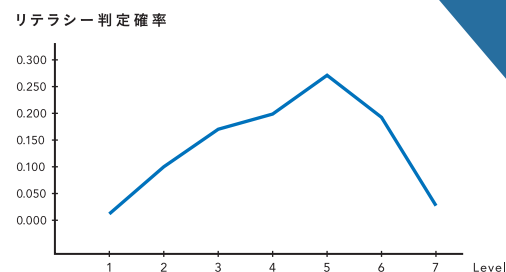
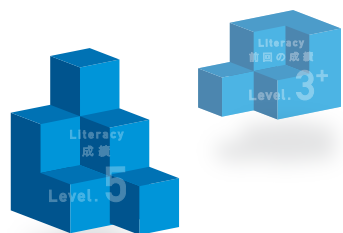
Literacy

リテラシー

リテラシーとは知識を理解・整理・活用する力。

社会人として知ってほしいことを自ら学び、それを理解し、使いこなそうとすることを指します。

松村直樹さんのリテラシー >>>



あなたのリテラシーは、レベル5と判定されました。しかしその確率は30%程度。50%程度の確率でレベル4以下であることも考えられます。リテラシーに関して、まだまだ開発余地があるととらえ、意識的に磨くことをおすすめします。付録のハンドブックやテキストも参考にしながら能力アップのプランを作成してみましょう。(このテキストはダミーです)

Literacy

リテラシー

[1 : 問題解決のプロセスを支える4つの力]

リテラシーを構成する要素

リテラシーは、①情報収集力、②情報分析力、③課題発見力、④構想力の4つの要素から構成されます。これらは問題解決のプロセスにかかせない要素です。しっかりした問題解決力を身に付けるためには、関連する知識を学習し、積極的に活用することが必要です。

情報収集力

幅広い観点から適切な情報源を見定め、適切な手段を用いて情報を収集・調査し、それらを適切に整理する力

成績
4
Level.

情報分析力

事実・情報を思い込みや臆測でなく客観的にかつ多角的に整理・分析し、それらを統合して隠れた構造を捉え本質を見極める力

成績
3
Level.

構想力

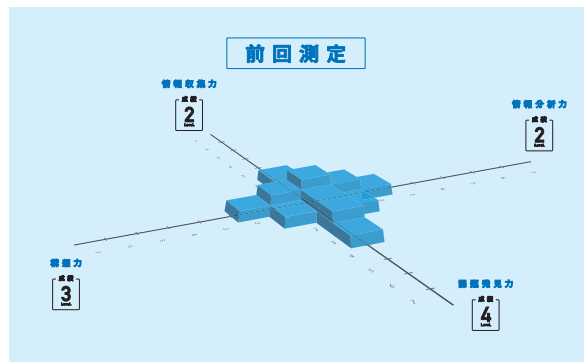
さまざまな条件や制約を考慮しながら問題解決までのプロセスを構想し、その過程で想定されるリスクや対処方法を考える力

成績
5
Level.

課題発見力

さまざまな角度と広い視野から現象を捉え、背景に隠れているメカニズムや原因について考察し、解決すべき課題を発見する力

成績
5
Level.



松村直樹さんのリテラシー開発傾向 >>>

ここでは、リテラシーの4つの構成要素別にあなたの開発傾向を測定しています。もっとも開発が進んでいるのは、構想力。授業やゼミではレポートにまとめるのが得意だったり、サークル活動やアルバイトで、なにか困っていることやアイデアを募る場面で、企画を発案するのが得意だったりという強みを実感できることがあるのではないのでしょうか。このことを社会人としてどう生かすかをより強く意識することで、自分の活躍イメージがぐっつきりしてくることでしょう。一方、課題になりそうなのは情報分析力。単に自分の意見やアイデアを述べるだけでなく、起こっている事実は何なのかに注目し、分析的にとらえることに苦手意識があるのでは。せっかくの努力も客観的に現状を、正確に事実にとらえていないまま行動したり発言したりするのは、周囲の信頼は得られません。(このテキストはダミーです)

Literacy

リテラシー

[2 : 処理能力]

言語 / 非言語

ふたつの処理能力のバランス

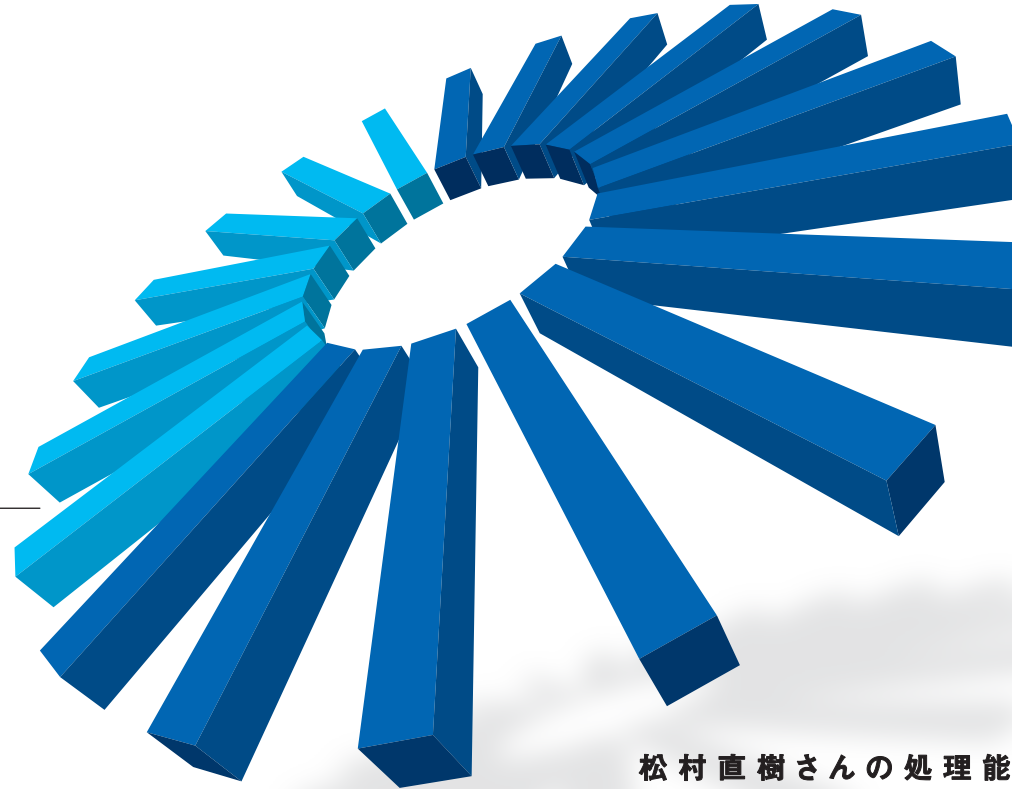
処理能力とは、パソコンにたとえるとCPU。この能力が高ければ高いほど、早くものを理解・習得し、答えを出すことができます。処理能力は大きく言語処理 / 非言語処理に分けられます。言語とはいわゆる国語の世界。長文読解・同義語・類似語・慣用句…といったことが使いこなせるかどうか。対して非言語は数学と物理の世界。方程式・数列・図形・時間・速度…といったことをいかに処理するかを指しています。

言語処理能力

成績
2
Level.

非言語処理能力

成績
3
Level.



松村直樹さんの処理能力開発傾向 >>>

あなたの処理能力はまだまだ開発される余地が大きいと言えます。特に言語処理に関しては、日常の意識的なトレーニングによって向上が期待されます。たとえば、長い文章を声に出して読み、その後主旨をまとめてみるというのもおすすめです。また一つの事柄に対し、さまざまな表現が豊かにできるよう「もっとほかに言い方はないかな?」と言葉のバリエーションを増やす意識をするのもよいでしょう。(このテキストはダミーです)

Competency

コンピテンシー

コンピテンシーとは人と、自身をあるべき方向に導く力。
周囲をリードする立場の人に期待される行動特性がとれるかどうかを指します。

松村直樹さんのリテラシー >>>



あなたのコンピテンシーは、レベル6と判定されました。意識的な行動によりコンピテンシーが
開花され始めた状態といえます。今後、ますます磨きをかけることによって、社会人としての
自身の強みとして、他者に誇れるようなものに能力に仕上げてください。以下ページの結果
を参考に、今後のブラッシュアップ計画を立て、意識的行動につなげることをおすすめします
(このテキストはダミーです)

Competency

コンピテンシー

[1: コンピテンシーを支える3つの力]

コンピテンシーを構成する要素

周囲をリードするには、人を理解し、課題の本質を理解し、自分を理解する必要があります。ゆえにコンピテンシーは ①対人基礎力 ②対課題基礎力 ③対自己基礎力 の三要素から構成されています。それぞれの能力がどんなバランスで発揮されているかが、そのまま行動として反映されるので、周囲から見たあなたの見え方が表れやすい結果といえます。

対人基礎力

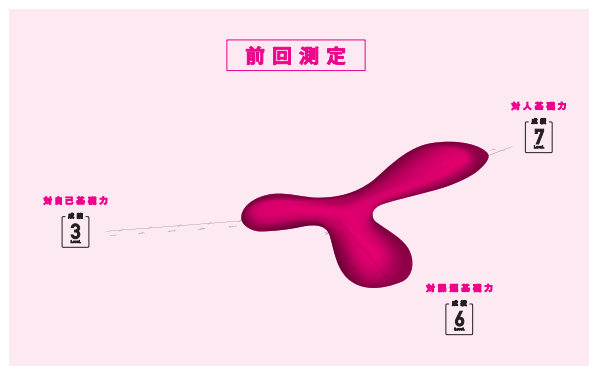
成績
7
Level.

対自己基礎力

成績
3
Level.

対課題基礎力

成績
6
Level.



松村直樹さんのコンピテンシー開発傾向① >>>

ここでは、コンピテンシーの3つの構成要素別にあなたの開発傾向を測定しています。もっとも開発が進んでいるのは、対人基礎能力。サークル活動やアルバイトで、周囲の人と協力したり、うまくことを進めるのが得意だったり、時にはリーダーとして率先行動できるという強みを実感できることがあるのではないのでしょうか。このことを社会人としてどう生かすかをより強く意識することで、自分の活躍イメージがくっきりしてくることでしょ。一方、課題になりそうなのは対自己基礎力。人から細かい指示を受けないと行動するのに躊躇したり、レポートなどをまあだいたいこんなものでいいかと思ったりしまったり。自分を奮起し、より高みを目指すスイッチの入れ方が自分でもつかめていない実感があるのではないのでしょうか。(このテキストはダミーです)

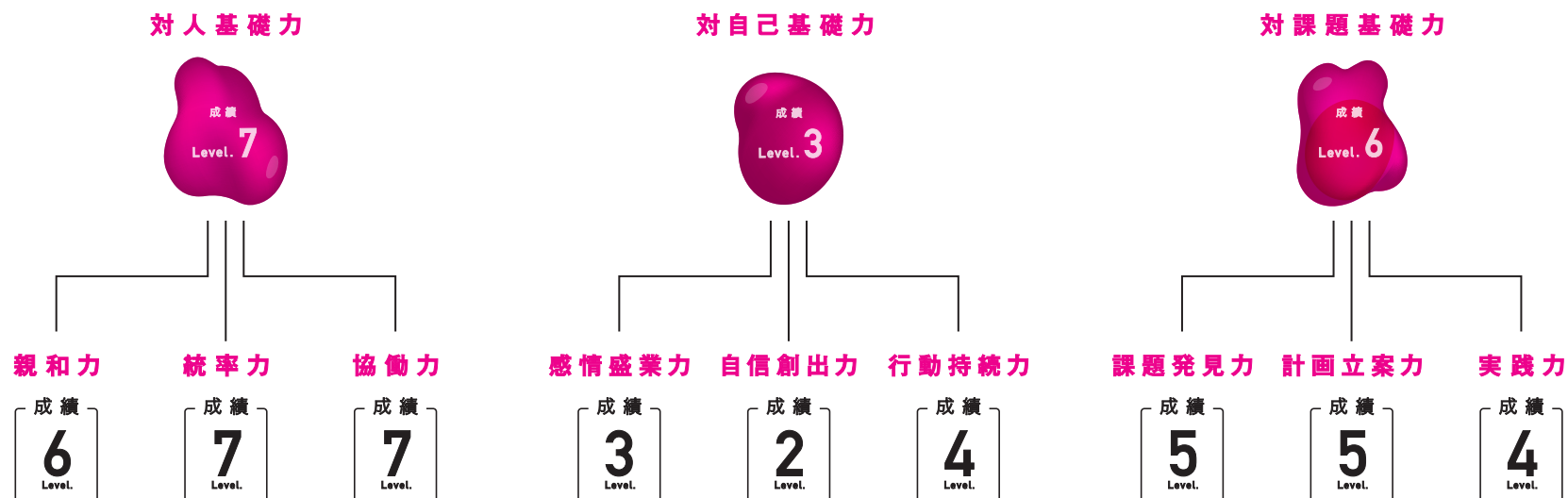
Competency

コンピテンシー

[2: コンピテンシーを支える3つの力]

コンピテンシーの3つの構成要素を、
更に分解し深める

このページでは、前頁で強み／課題ととらえた要素に関するの
理解を深めるために、コンピテンシーの3つの構成要素をさらに
分解し、9つの力にわけています。



松村直樹さんのコンピテンシー開発傾向② >>>

コンピテンシーを9つの要素に分けた場合、開発が進んでいるのは、統率力と協働力。統率力とは、その名の通り、集団を統べ率いる力。協働とはチームワークを起こす力。課題になりそうなのは感情盛業力と自信創出力。感情盛業力とは、自身の感情をよい方向へ生かす力。自信創出力は自身の強み／弱みを把握し、セルフプロデュースする力。それぞれどんな場面で強みを発揮し、どんな場面で課題として現れているでしょうか？場面を思い浮かべ、あの時どうするべきだったか、いまならどう行動したいか、を考えてみることで自分が能力開発につながります。(このテキストはダミーです)

